国家汉办/孔子学院总部
Hanban/Confucius Institute Headquarters

陶渊明

《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版

主编 周宪 程爱民
王青 著
胡光辉 译
樱田芳树 监译

北陆大学出版会
南京大学出版社

陶渊明

《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版

主编 周宪 程爱民
王青 著
胡光辉 译
樱田芳树 监译

北陆大学出版会
南京大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

陶渊明:汉日对照 / 王青著;胡光辉译.—南京:南京大学出版社,2015.10
(《中国思想家评传》简明读本)
ISBN 978-7-305-15833-9

Ⅰ.①陶… Ⅱ.①王…②胡… Ⅲ.①陶渊明(365～427)—评传—汉、日 Ⅳ.①K825.6

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 200012 号

出版发行 南京大学出版社
社　　址 南京市汉口路 22 号　　邮　编 210093
出 版 人 金鑫荣

丛 书 名 《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版
书　　名 陶渊明
著　　者 王　青
译　　者 胡光辉
监　　译 樱田芳树
责任编辑 田　雁　　编辑热线 025-83596027

照　　排 南京紫藤制版印务中心
印　　刷 常州市武进第三印刷有限公司
开　　本 850×1168 1/32 印张 7.625 字数 181 千
版　　次 2015 年 10 月第 1 版 2015 年 10 月第 1 次印刷
ISBN 978-7-305-15833-9
定　　价 26.00 元

网址:http://www.njupco.com
官方微博:http://weibo.com/njupco
官方微信号:njupress
销售咨询热线:(025)83594756

---

* 版权所有,侵权必究
* 凡购买南大版图书,如有印装质量问题,请与所购图书销售部门联系调换

《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版

编辑委员会

主　　任　许　琳　张异宾

顾　　问　北元喜朗

副 主 任　马箭飞　周　宪　周　航

编辑委员　马箭飞　王明生　王　涵　左　健　田　雁
许　琳　吕浩雪　张异宾　村田和弘　周　宪
周　航　周　群　金鑫荣　泉洋成　胡　豪
夏维中　徐兴无　笠原祥士郎　蒋广学　程爱民

主　　编　周　宪　程爱民

本　读　本

由南京大学出版社与北陆大学出版会共同出版。

日文版的版权属北陆大学出版会所有。

中日文版的版权属南京大学出版社所有。

序

古代中国は人類の文明にとっても精神にとっても、ゆりかごのようなものです。

ドイツ人哲学者カール・ヤスパース(Karl Jaspers,1883年～1969年)の見解によれば、エジプト、メソポタミア、インド、中国の四大文明の発祥の後、紀元前800年から紀元前200年の間、おもに紀元前500年を中心に、世界中に連続した体系的な文明がふたたび生まれたということです。この時代のことを彼は枢軸時代(Axial Age)と呼んでいます。これらの文明には大思想家たちが現れ、彼らは人類や世界の根源的諸問題について思索し、解脱(げだつ)や超越の目標と方法について示唆したのです。たとえば、中国の孔子、老子、墨子、荘子などの思想家たちや、インドのウパニシャド(奥義書)や釈迦、ギリシャの詩人ホメロス、悲劇詩人のトゥキュディディス、哲学者のヘラクレイトス、プラトン、アリストテレス、さらにパレスチナの思想家たちが、中国、インドおよび西方諸国の、それぞれ相互に交流のない地域において、ほとんど同時に出現したのです。そして、彼ら大思想家たちが創り上げた思想的様式および世界的な宗教は、現代もなお人類に精神のよりどころとされていて、彼らは今もなお我々の生活とともにあるのです。

さて、中国五千年の文明の歴史を座標として、ヤスパースの視点を重ね合わせると、紀元前551年から紀元前479年の間に生きた孔子は、まさに中国文明がこの枢軸時代にさしかかったころの代表的人物であり、彼はこの五千年の中間点あるいは折り返し地点にあったと言えま

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

す。黄河文明の発祥から孔子の時代に至るまでと、孔子の時代から我々の現代に至るまでは、ともにそれぞれ2500年前後を数えることができます。孔子が現われる前には、中国に思想というものはあっても思想家は存在しませんでしたが、孔子以降、中国にも古代思想家たちが次々と現れて、彼らは中華民族だけでなく全人類にとっても価値のある豊かな思想的遺産を残したのです。孔子が唱えた「故(ふる)きを温めて新しきを知る」①とか「信じて古(いにし)えを好む」②といった思想上の原則は、中国の伝統を重んじるという姿勢に影響を及ぼしました。すなわち、古人の思想的遺産を尊重し、立ち止まることなく古人の思想を理解しそれを発展させ続け、その中から思考や宇宙・社会・人生問題に対応するためのすべを人々は獲得したのです。このことこそが、我々が今この『中国思想家評伝』簡明読本版(日本語版『中国著名歴史人物伝集』)を世に問う理由でもあります。

中国の悠久なる古代思想史を見渡すと、思想家たちが貢献した成果には深い造詣と高い価値があり、それは世界思想史上において独自の旗印を掲げるものとなりました。それら数々の思想は現代の中国あるいは世界にとっても、日々新しく生まれ、生命力にあふれたものと言えます。百家争鳴の先秦諸子、スケールの大きな含蓄のある漢や唐の経学③、親しみやすく幽玄な魏晋の玄学④や、知性を尽くした宋や明の理学⑤など、

---

① 『論語』「為政」。(訳者注)
② 『論語』「述而」。(訳者注)
③ 儒教古典の解釈学。(訳者注)
④ 『老子』『荘子』『易』を尊崇する学風。(訳者注)
⑤ 人間の道徳性や天と人を貫くことわり(理)を追求する新儒学。(訳者注)

どれも思想学術のあでやかな花であり、仏教の色即是空の悟りや道教の神仙修養は宗教的信仰の沃土と言えましょう。そのほかにも、経世済民①の政治・経済思想や自然の理をも乗り越えようとする巧みの科学技術や工芸の道、風雅の真髄に迫り、彩りの落ちることのない文学芸術……これらすべてにわたって豊かな思想を醸し出しています。中国の思想はそれぞれが時には水と火の関係のように相容れることなく激しく論争し合ったかと思うと、さまざまな思想が合致し合い、道は異なれども同じところに行き着いたりしましたし、また、いろいろな学派が生まれ林立したかと思うと、それらが互いに啓発し合い、奥義を究めていったりしました。儒、仏、道の三教も論争のなかから融合し、さまざまな思想がともに行われて、対立しませんでした。このように、中国思想の成立は豊富で多彩なものであり、天人合一②、知行合一③、剛健中和④などの精神的伝統を貫きつつ、継承や解釈をしていきながら変遷し、一代ごとに研ぎ澄まされ、総合と新奇の特色を表し続けてきたのです。

中国古代思想史には、思想家とか思索者とか、哲学者などといった言い方や概念はなく、聖人、賢人、哲人、智者、諸子、大師などの呼称があるだけです。とはいえ、こうした呼称こそがまさに中国古代思想家の特徴を概括していると言えます。彼らの社会的身分は、たいていが教師か学者でしたが、それは彼らの思想が道徳と智慧を追求したものだっ

---

① 世を治め、民の苦しみを救うこと。（訳者注）
② 人の行為は天と連動していることを強調する考え方。（訳者注）
③ 知って行わないのは、未だ知らないことと同じであることを主張した実践重視の教え。（訳者注）
④ 強く健やかでありつつ、異なる性質を持った者同士が交わること。（訳者注）

たからです。もちろん、より広い範囲から見れば、中国古代思想は、政治、軍事、経済、法律、工芸、科学技術、文学、芸術、宗教など多くの文明的領域において、大きな貢献をしましたが、創始者や集大成者など傑出した人物の言論や著作、あるいは弟子たちによってまとめられた言行録などこそが中国古代思想の重要な内容なのです。中国人は、孔子以前にすでに、「功を立て」、「徳を立て」、「言を立て」るの「三不朽」といった、超越を追求するための道しるべを作り上げましたが、これら人類社会のためにうち立てた大きな功績、個人的道徳修行の完遂と思想、智慧、学説などのすべてはまさに不朽の歴史的遺産とも言えます。こうした意味から言えば、中国思想家たちの手による成果は、我々現代人が慣れ親しんだ職業思想家、哲学者あるいは宗教的先知をも大きく超えていると言えましょう。そして、我々が『中国思想家評伝』簡明読本を執筆するにあたっても、こうした基準に基づいて思想家たちを選びました。

さて、南京大学名誉学長の故匡亜明（きょうあめい）教授の監修を仰いで、南京大学出版社より出版された『中国思想家評伝叢書』は、中国20世紀以来、最も広大な中国思想家研究の成果と言えましょう。今回、簡明読本叢書の編集出版にあたって、まずこの200冊にもおよぶ『中国思想家評伝叢書』の労苦に深い敬意を表すものであります。この巨人の双肩に依りつつ、本簡明読本においても、学術的基礎を保持しながら、なおかつそこにいくらかの新鮮味を加えたつもりです。その新鮮味とは内容は深いままに表現は分かりやすくし、より広範な読者をも惹（ひ）きつけるものにしたことであります。思索と読みやすい表現、生き生きとした物語と智慧……中国文化の「拡大」と文化のグローバル化を提唱する今日、この読本による古代中国思想家たちの紹介を通して、中国思想に関心

を持たれる読者のみなさんが、我々と古人たちとがともに直面する一つ一つの問題を掲げながら、古代の中国思想家たちと胸襟を開いた対話をされることを期してやみません。

編集委員会

2008年9月

目次(日文版)

序 …… i
一　東晋の重臣と江左の名士
——陶淵明の二人の先輩 …… 1
二　出処の間の矛盾と葛藤
——陶淵明の仕官生活 …… 13
三　困苦の中で詩と共に
——陶淵明の隠逸生活 …… 29
四　仲良く親しい人間関係
——陶淵明の親族・友人たち …… 48
五　晋宋交替期の傍観者
——陶淵明の新たな王朝に対する態度 …… 64
六　自然崇拝と楽天知命
——陶淵明の人生問題についての見方 …… 71
七　平等・安寧の桃源郷
——陶淵明の理想社会 …… 89
八　平淡・沖和の中に表現された高遠な芸術的境地
——陶淵明の文学創作 …… 105
九　模範となる人格とその芸術
——陶淵明の後世に対する影響 …… 130

目录(中文版)

序 …… 143
一、东晋重臣与江左名士——陶渊明的两个先辈 …… 147
二、出处之间的矛盾与挣扎——陶渊明的仕宦生活 …… 154
三、在困苦中诗意地栖居——陶渊明的归隐生活 …… 164
四、和睦友善的人际关系——陶渊明的亲友们 …… 176
五、晋宋变局中的旁观者——陶渊明对新朝的态度 …… 186
六、崇尚自然与乐天知命——陶渊明对人生问题的看法 …… 191
七、平等安宁的世外桃源——陶渊明的社会理想 …… 201
八、在平淡冲和中表现高远意境——陶渊明的文学创作 …… 210
九、人格楷模与艺术典范——陶渊明对后世的影响 …… 225
延伸阅读书目 …… 230

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

一　東晋の重臣と江左[1]の名士
——陶淵明の二人の先輩

陶淵明は、中国の歴史上の著名な隠逸者であると同時に、偉大な詩人であり、彼が生きた時代には、主に隠逸者として有名でした。彼が亡くなった後、劉宋王朝の著名な詩人である顔延之（がんえんし）は、彼のために「陶徵士誄（とうちょうしるい）」という有名な誄文を書きました。その六十年後、沈約（しんやく）が『宋書』[2]において、陶淵明のために列伝を作成し、さらにその百年後、梁朝の太子蕭統（しょうとう）が陶淵明の文集を編集し、伝記を書いたのです。それらの伝記によれば、陶淵明の称呼は十通りもありました。多くの学者の考えでは、東晋時代には彼の名は淵明、字は元亮で、宋になってから名を潜に改めました。彼は改名によって、新しい統治者に協力しないという態度を表すことにしたのです。彼の住居のまわりに柳の木五本が植えてあったので、自ら五柳先生という号も用いていました。彼の死後、彼を敬愛する人たちは、靖節先生という諡号（おくりな）を贈ることにしました。

陶淵明の没年は、南朝宋元嘉四年（427年）で、一時期彼と親密に交流し隣人であった顔延之は「春秋若干」と記しています。これは、誄文を書く者は死者の正確な年齢を知らないので、空欄扱いして死者の家族に補充してもらうためです。彼の享年については、様々な説がありますが、現在、われわれは通常『宋書』の中の六十三歳という説を採用しています。結局これが陶淵明の享年についての最初の記載だからです。

---

① 長江下流の北岸に立って、対岸の左側、江東に同じで、南朝の地。（訳者注）
② 斉の王朝が編纂した前代宋の史書、正史。（訳者注）

従って、陶淵明は365年に生まれたということになります。

陶淵明は、江州（こうしゅう）尋陽郡（じんようぐん）柴桑（さいそう）県の人（今の江西省九江市の西）です。江州は教育・文化を重視する先進地域でした。陶淵明が生活していた時期に、範宣と範寧の二人が豫章（よしょう）（今の江西省南昌市）で経学の普及に力を入れ、郡内に郷校を設立して経学を教授していました。これによって江州人士はみな経学を学ぶのが、一時期の風潮になりました。また、江州の隠逸の風潮も非常に盛んであり、当地では多くの隠士が現れただけでなく、廬山（ろざん）という名勝があるため、多くの外地の方外の士が集まってくることになりました。柴桑は、江州の州府所在地であっただけではなく、尋陽郡府の所在地及び軍府所在地でもあり、多くの官僚及び軍官が集まっていました。これらの官僚・軍官の俸禄の一部分は公田によってまかなわれており、公田そのものは「吏」（官員が雇用する部下のこと）が耕作を行なうことになっています。州府と軍府が同じ地にあるため、役人、兵士が集中していました。東晋の制度によると、これらの兵士は耕作しながら国を守る必要があります。一

（清）上官周画陶淵明像

般の編戸①や兵戸のほか、佃戸②も大量に流入し、人口の面では柴桑地方の開発にとって十分であったといえます。これらの官僚・兵戸と佃戸の多くは、北方の移民であり、彼らは先進的耕作技術を持ってきたため、尋陽地区の農業生産は他の地域に比べると、当時は比較的進んでおり、食料の生産量も高かったのです。この地区は、長江の近くにあり、村落が連なり、人口密度が高く、農地が縦横に連なり、また廬山（ろざん）と鄱陽湖（はようこ）もあり、山水が非常に美しいところです。陶淵明は、まさにこのような環境の中で生まれ、成長したのです。

廬山風景

① 戸籍に編入された普通民。（訳者注）
② 地主の土地を借りて耕す小作農。（訳者注）

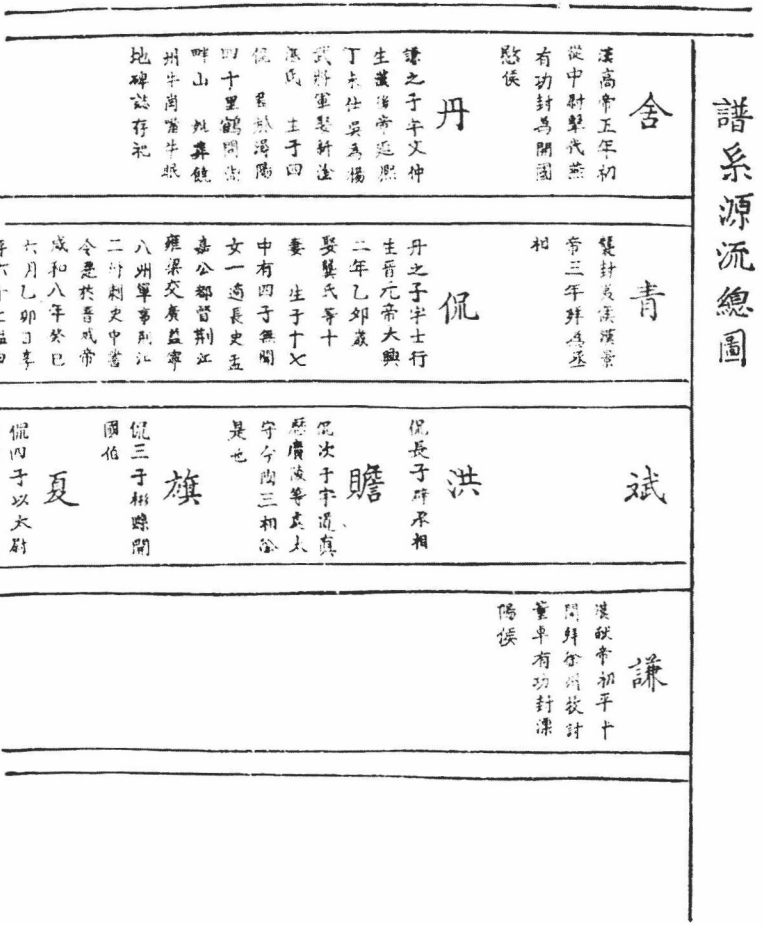
陶淵明の曾祖父陶侃は、東晋の大将軍です。陶侃は、王敦・蘇峻の乱を平定した功績が認められ、晋朝の高官となり、同時に長沙郡公に封ぜられました。陶侃の晩年は、位人臣を極めたので、晋朝では最初から最後まで評価され寵愛されていました。

このような地位が高く有名な曾祖父を有することは、陶淵明の政治仕途にとって大いにプラスになっていました。しかしながら、陶氏一族とりわけ陶淵明の家系の晋朝における地位は、また以下のいくつかの要素によって影響を受けていました。

第一は、陶侃本人は地位の低い家庭に生まれ、晋朝では軍での業績によって新貴族となり、高い地位を得たので、後漢から名門の旧来の貴族とは大きく異なっていました。同時に、陶侃は南方の土着であり、一方東晋を掌握している重要な権力者の大部分は中原地区の移民貴族で、これらの移民貴族は意識的に当地の士族を抑えていました。陶侃が亡くなった後、何人かの重要な外戚らと他の名門（みな北方からの移民）が、江州の支配権をめぐって争うようになり、陶氏の家系の江州における影響力を弱めるため、陶氏一族の実力と地位を抑制する必要がありました。

第二は、陶侃の死後、彼の息子たちは仲が悪くなり、長期にわたって家族紛争に陥ったため、家族の力が弱まってしまいました。晋朝では、「孝悌」が最も基本的な、最も重要な価値規範として大事にされていたため、兄弟間の争いが醜聞となり、家族の評判に大きな影響を与えてしまったからです。

第三は、最も重要な点ですが、陶淵明の祖父である陶茂は、陶侃の多くの子息の中で、庶腹の低い立場にあったということです。陶侃は、生


譜系源流總圖
舍
漢高帝五年初從中尉擊代燕有功封為開國愍侯
丹
舍之子字文仲生黃帝延熙丁未仕吳為揚武將軍娶新蔡氏　生子四侃　名熊潯陽四十里鶴問街畔山　挑葬饒州半岡崔半脈地碑誌存祀
青
襲封長沙漢景帝三年拜為丞相
侃
丹之子字士行生晉元帝大興二年乙卯歲娶龔氏等十妻　生子十七中有四子無聞女一適長史五嘉公都督荊江雍梁交廣益寧八州軍事荊江二州刺史中書令薨於晉成帝咸和八年癸巳六月乙卯日享年六十七謚四
洪
侃長子辟丞相
瞻
侃次子字道真歷廣陵等長太守分閩三相公是也
旗
侃三子桂陽開國伯
夏
侃四子以大尉力封部尉長
斌
謙
漢昭帝初平十間拜金紫將軍討董卓有功封漢陽侯

陶氏宗譜

涯で十五人の妻妾を有し、十七名の息子（さらに少なくとも十人の娘）を儲けました。『晋書』は、陶侃の十一人の息子の名前を記載していますが、陶淵明の祖父陶茂については触れていません。このことからも、陶茂の母親は陶侃の正妻ではないことが推測できましょう。陶茂の家系は、陶淵明の時代になっておよそ陶系一族の大宗に忘れられていたと思われます。陶淵明は、ある詩①において、彼の支族と長沙公を受け継ぐ陶延寿一族との関係は既に他人同様であると述べていました。東晋末において、尋陽で陶延寿に出会ったことがありますが、双方とも同宗の一族であることを忘れていたのです。家族の地位の低下は、陶淵明の政治的社会的地位に影響を与えていたと言えます。

陶淵明の祖父陶茂は、武昌郡の地方官になったことがありますが、陶淵明の父親は誇れるような官職におそらく就いたことがないと思われます。陶淵明は、彼の父親について非常に恬淡で物静かなタイプであり、大喜びをしたり激怒したりするなどの激しい感情を表すことはまれであったと称賛しています。この種の性格は、当然陶淵明に影響を与えていたと思われます。しかし、陶淵明は八歳の時、すでに父親を亡くし、父親の影響を受けたのは決して長い時間ではありません。

陶淵明は、陶氏家族の中の最初の隠逸者ではなく、陶淵明の叔父の代において、すでに仙道に熱心な隠逸者がいました。陶侃の多くの子孫の中に、陶淡という人が、幼い頃に孤児となり、大きくなってから長生の術が好きになって、修練を通じて道を得れば仙人となれると信じて

---

① 「長沙公に贈る　并びに序」に「昭穆既に遠く、以って路人となる。」とある。（訳者注）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com